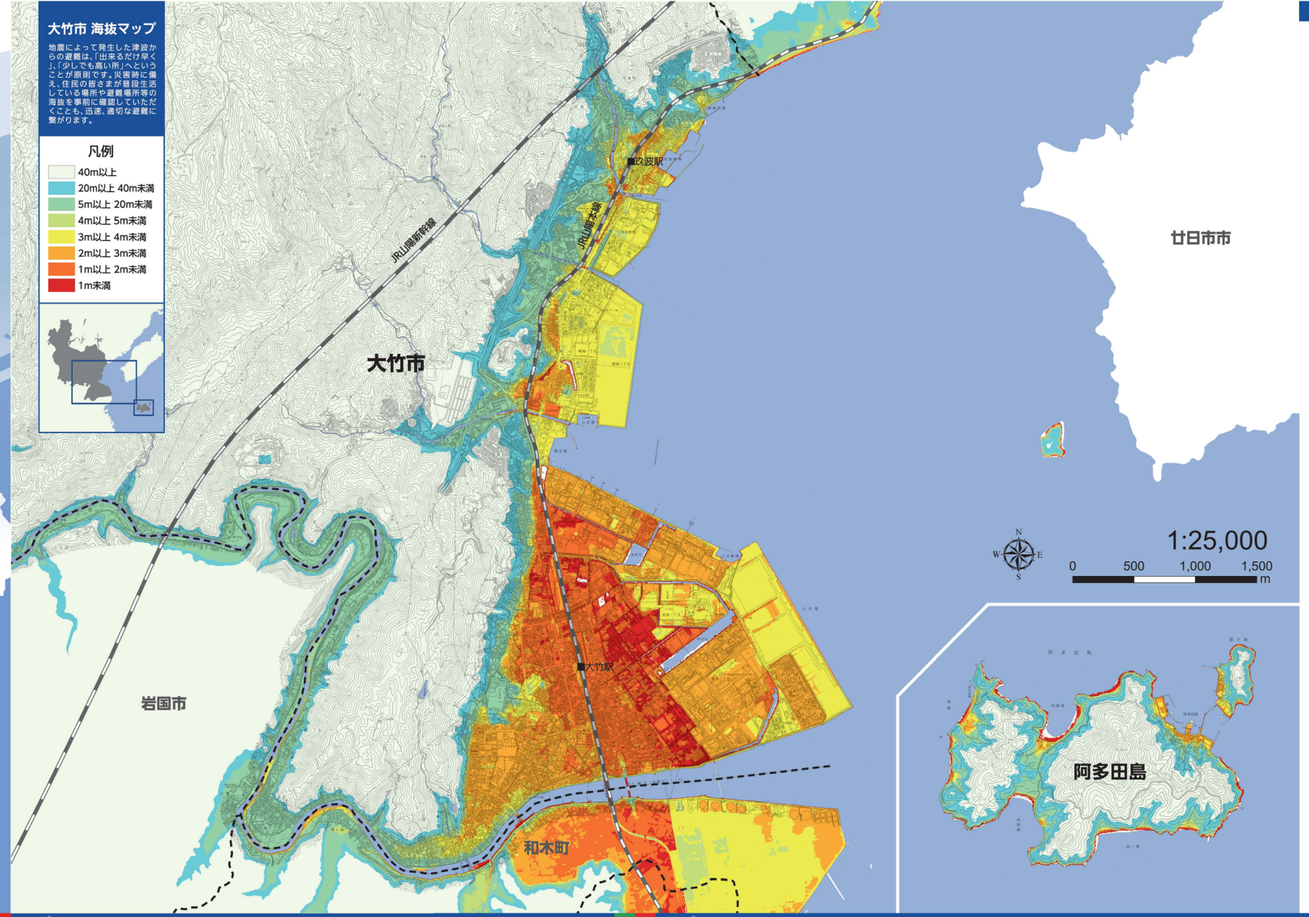
大竹市津波避難地図
津波ハザードマップ
OTAKE CITY TSUNAMI HAZARD MAP

2014年(平成26年)3月発行



■このハザードマップを使って日ごろから津波に備えておきましょう。

ハザードマップを活用しよう！

このハザードマップは、南海トラフを震源とする地震により発生する最大クラスの津波から身を守るための情報が掲載されています。このマップを活用し、地震・津波に対する具体的なイメージをもって、その特性を正しく理解するとともに、正しい判断と行動をすることで、津波から命を守りましょう。

●津波災害に関する学習をしましょう。

●非常持出品を準備し、すぐに持ち出せるような場所に保管しましょう。

●海水浴や川遊びに出かけるときは携帯ラジオを持ち、近くの避難可能な場所を把握しておきましょう。

●防災訓練に参加し、地域における協力体制について話し合いましょう。

●家族で話し合い、実際に避難場所まで歩いてみたり、わが家のハザードマップをつくりましょう。

■家族が居る場所から近い避難場所や連絡先を記入しておきましょう。

家族（親戚・知人など）の名前	電話番号（会社・学校・携帯）	備考

わが家の避難場所	家族の集合場所	非常持出品の置き場所

■災害用伝言ダイヤル171やWeb171で家族の安否を確認しましょう。

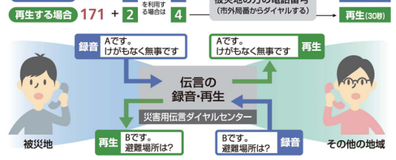
災害用伝言板（災害用伝言ダイヤル171／Web171）は、電話・インターネットを利用して被災地にいる方の安否確認ができる伝言板です。携帯電話、スマートフォン、パソコンなどからも利用することができます。

災害用伝言ダイヤル

1 7 1

災害用伝言ダイヤル171は、固定電話を利用した声の伝言板です。大規模な災害が発生した場合に提供を開始します。災害時は全国から被災地への電話がつながりにくくなります。もしものために、ぜひ覚えておいてください。

Web171（文字の伝言板）
https://www.web171.jp
※SoftBank,au,docomo等のキャリアごとにアクセス方法が異なります。



■いざというときの連絡先

海難事故 118　火事・救急 119　警察 110

大竹市役所 総務部 総務課／〒739-0692 広島県大竹市小方１丁目１１番１号
電話番号：(0827)59-2111（代表） FAX番号：(0827)57-7130
電子メール：soumu@city.otake.hiroshima.jp

■大竹市で想定される巨大地震について

南海トラフを震源とする巨大地震が生じた場合、津波が発生すると想定されています。

マグニチュード	大竹市では最大	揺れ
M9.1	震度６強	約４分間

広島県内において、大きな被害をもたらす地震の一つとして、南海トラフを震源とする南海地震があります。過去に発生した南海地震は、いずれも東南海地震と同時、または東南海地震の発生後２年以内に発生しており、概ね100～150年周期で発生しています。
また、大竹市周辺には３つの活断層群があり、注意が必要となります。

▶沿岸部において津波の影響が出るまでの想定時間

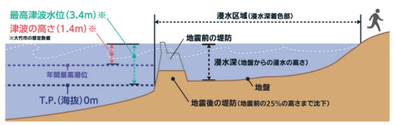
■ハザードマップの浸水想定について

このハザードマップに記載された浸水想定区域や浸水の深さは、広島県津波浸水想定の内容を反映したものです。広島県では、発生すると甚大な被害を及ぼす「南海トラフ巨大地震」による津波を想定し、次のような条件を設定したうえでこの想定を行っています。

条件　潮位が年間で最も高い時に津波（南海トラフ巨大地震による）が発生

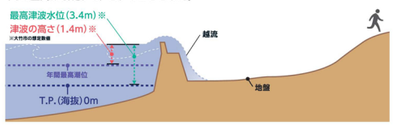
堤防が機能しない場合　沿岸部イメージ図

地震発生から３分後に、盛土構造物※1は25％の高さ、コンクリート構造物※2は0％の高さになる。ただし、地震発生から３分以内に津波が構造物を越流すると構造物なし（その区間は破壊する）とすることとした。
※1 盛土構造物：横断図、台帳や航空写真に基づき、盛土構造が確認できるもの　※2 コンクリート構造物：盛土構造物以外のもの



堤防が機能する場合　沿岸部イメージ図

津波が構造物を越えるまでは当該構造物は機能し、越流すると構造物なし（その区間は破壊する）とすることとした。



【東京湾平均海面（T.P.）】
東京湾の代表地点における平均潮位の海面の高さ。標高の基準となる。【東京湾平均海面＝標高（海抜）0m】

【海抜】
T.P.（東京湾平均海面）からの高さのこと。

【津波の高さ】
津波が来る方の潮位から津波により実際に上昇した海面の高さのこと。

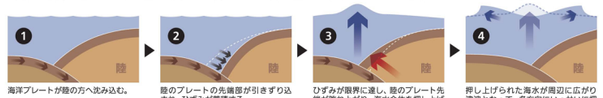
【最高津波水位】
潮位が年間で最も高いときに発生した津波高（海抜）のこと。

【浸水深】
浸水域の水面から地面までの深さ

●このハザードマップは、最大クラスの津波が最条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表しています。
●最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に計算したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
●このハザードマップの浸水域や浸水深は津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。
●浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響、地震による地盤変動、構造物の変状などにより、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる場合があります。
●最大域外で浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

■津波発生のメカニズム

海底で地震が起こると、大量の海水が一度に大きく持ち上がり、津波となって沿岸までやってきます。



海洋プレートが陸の方へ沈み込む。

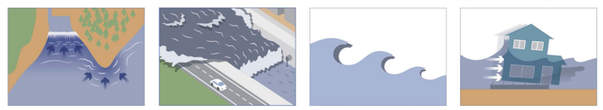
陸のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。

ひずみが限界に達し、陸のプレート先端が跳ね上がり、海水全体を押し上げる。

押し上げられた海水が周辺に広がり津波となって、多方向にいっせいに押し寄せる。

■津波の特徴

津波はいくつかの特徴を持った災害です。津波の特徴を知り、いざというときのために準備をしましょう。



●岬の先端やV字型の湾内、入り組んだ海岸は津波のエネルギーが集中し、波が高くなる可能性があります。

●津波は川を遡り（遡上）、堤防を超えて陸地に津波が溢れます。

●第一波より第二波、第三波のほうが大きくなる可能性があります。

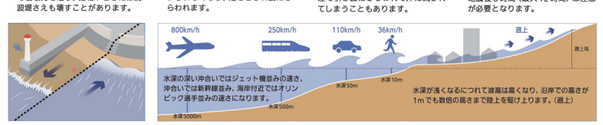
●１～２ｍの津波で家屋の全壊、流失する可能性があります。

●津波はガレキ等の漂流物を巻き込んで破壊力を増し、建物やときには防波堤さえも壊すことがあります。

●20～30cm程度の津波でも立っていられなくなり、足をとられ転ぶこともあります。

●引いていく波の破壊力もすさまじく、陸で引き波にさらわれて沖に流されてしまうこともあります。

●津波は繰り返し襲って来ます。地震後も時間（最大12時間）は注意が必要となります。



●津波は引き潮からはじまるとは限りません。

●震源が近く、水深が深いほど津波は速く襲ってきます。早いときには揺れてから数分で襲ってきます。
●基本的に地震の震度と津波の高さは比例します。

■過去の津波による被害（東日本大震災からの教訓）

東日本大震災のときに起きた津波災害から学ぶことで、私たちの命を守るヒントがあるかもしれません。
同じ失敗を繰り返さないように特徴的な事例を学びましょう。

死亡者の過半数は高齢者

東日本大震災の死者のうち60歳以上の比率は64.4％と高齢者ほど死亡率が高くなっています。津波被害から逃げたり脱出したりする困難性が加節によりより大きく影響を受けた様子が伺われ、自宅にいて逃げ遅れたケースが少なくないとみられます。

死因の9割は溺死

東日本大震災で亡くなった岩手、宮城、福島3県の人たちの死因の9割は、津波による溺死でした。津波による死因は、海や川、プールで亡くなる「狭義の溺死」と異なり、津波の水圧と水流、漂流物という三つの要素が大きな影響を与えていたと考えられています。

避難は率先して

津波が来ると知られてもどこかへ逃げようと考え、近所の人たちもまだ避難していないし大丈夫だろうと避難のタイミングが遅れて被災してしまうケースがあります。自ら危険だと判断した場合は率先して避難をしましょう。

平野部はリアス式海岸に比べ、死亡率が高い

同じ津波の高さでもリアス式海岸を中心とする地域に比べ、平野部での死亡率は倍以上と高いことが分かりました。平野部は近くに逃げるための高台が少なかったことが原因とみられています。

■津波から命を守るために

ポイント マップで自宅や家族に関係する場所の浸水深を確認しましょう。地震・津波から命を守るために、いざというときの行動や避難の方法を普段から想定し、適切に避難をしましょう。

大地震発生

立っていられない揺れです。

▶まず身の安全を確保しましょう！

●机やテーブルの下へ隠れて、頭を守り、じっと待つ。

●倒れてくる家具や落下物に注意する。

●ドアや窓を少し開けて、逃げ道を作っておく。

■車にいた場合

●車は道路の左端へ寄せ、鍵はつけたままで避難する。

■船にいた場合

●船は港に戻らずに沖合いへ避難する。

地震発生から 1-2分 約4分間（最長）

強い揺れがおさまったら・・・

▶落ち着いて状況を把握しましょう！

●長い1分以上の揺れが収まったら、警報等の発表を待たずにすぐに避難する。
●すぐ避難できるように靴を履いておく。
●避難は、ガラスやかわらなどの落下物に注意し、落ち着いて行動する。
●避難前は火元を消す。都市ガスは自動で元栓が閉まる場合があります。
●海へ行って見物してはいけません。津波が見えてからでは遅ければなりません。

地震発生から 2-3分

気象庁より津波警報発表

●地震発生から2～3分で津波情報が発表されます。注意報・警報が出たら冷静な行動をし、避難しましょう。

地震発生から 3分-26分

※沿岸部に津波の影響が出るまでの時間です。
地震発生から26分までに避難しましょう。

住まい、職場、学校など津波の危険がある場合　「すぐ逃げましょう！」

▶揺れを感じなくても、注意報、警報が発表されたり、市からの避難指示・勧告が発令されたらすぐ避難！とにかく走って、戻らない！

●小さな揺れでも要注意。まずは避難が最優先

●より早く、遠くへ、高い所へ避難

●海岸や河川からはできだけ遠ざかるように避難

●持出品は取り出しやすい場所に保管する。

●限界として車で避難しない。渋滞を引き起こし、危険です。

地震発生から 6時間（最大12時間）

市が指定した浸水被害の無い避難場所又は高台などに避難

▶津波警報が解除されるまでは戻らないようにしましょう！

●近くに高台がない場合は高い頑丈な建物など可能な限り高い所へ避難。
●避難場所では最新の情報を収集する。

地震・津波の危険がなくなった（津波警報・注意報の解除）

家に被害がない

家に被害があり生活できない

地震発生から 数日

家にもどる

避難場所での避難生活（浸水区域外）

住まい、職場、学校など津波の危険がない場合

▶浸水区域には近づかないようにしましょう！

●家族や近隣住民の安否確認を行う。

●周囲に協力して救出／消火活動を行う。

避難所に行く必要がある ― 避難所に行く５つの理由 ―
［阪神・淡路大震災からの生活再興調査結果報告書―」京都大学防災研究所巨大災害研究センター（2006）より

1「ガスの途絶」「断水」「トイレの使用不可」など「ライフラインの使用不可」
2「行政支援、情報・物資、人のいるところを求めて」など「情報・物資の要求」
3「高齢者・ケアが必要な家族の存在」
4「建物の安全性への不安」「避難指示等が出ておらず、周囲に誘われて」
5「余震が怖い」「環境変化への心配のある乳幼児がいない」

避難所に行く必要がない

●余震や津波など災害情報に注意する。
●ガラスの破片や転倒した家具などの片付けを行う。

●ブレーカーを切り、ガスの元栓を締める。

●非常持出品を準備する。

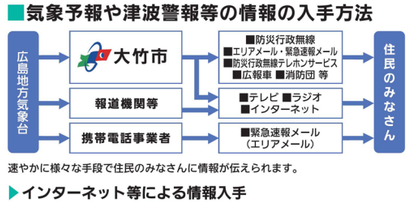
●避難行動要支援者の避難等に協力する。

■津波警報等の種類

気象庁は、地震が発生したときには地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約３分（一部の地震については最速２分程度）を目標に、大津波警報（特別警報）、津波警報または津波注意報を、津波予報区単位で発表します。

	予想される津波の高さ ※平常潮位からの高さで高い方を示した値の高さ		想定される被害	高さのイメージ	取るべき行動
	数値での発表（高さ予想）	巨大地震の場合の表現			
大津波警報（特別警報）	10m超（10m～）	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。		マップの浸水域や海岸、川の近くに居る人は、ただちに近くの市が指定した浸水被害の無い避難場所又は高台などに避難。
	10m（5m～10m）				
	5m（3m～5m）				
津波警報	3m（1m～3m）	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。（内閣府データ：木造家屋は2階の浸水で全壊）		浸水時緊急避難施設
津波注意報	1m（20cm～1m）	表記しない	海の中では人は早い流れに巻き込まれ、また養殖いかだが流失し作業船が転覆します。		津波避難が可能な避難場所（浸水区域外）

■気象予報や津波警報等の情報の入手方法



速やかに様々な手段で住民のみなさんに情報が伝えられます。

▶インターネット等による情報入手

大竹市の避難場所、津波に関する情報や気象、警報に関する情報は、インターネットやメール配信システムからも確認することができます。

大竹市ホームページ	http://www.city.otake.hiroshima.jp/
大竹市防災情報	http://www.city.otake.hiroshima.jp/bousai/
広島県防災 Web	http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/hdis/
広島県防災情報メール通知サービス	http://www.bousai-mail.pref.hiroshima.lg.jp/home.jsp

防災行政無線テレホンサービス

防災行政無線の放送内容を電話から確認することができます。

(0827)59-0010

※通話料は利用者負担となります。

海抜表示板

大竹市内の学校や公共施設等に海抜表示板を設置しています。